

## 第 23 回精華町環境推進委員会 会議録

会議名		第 23 回精華町環境推進委員会		
開催日時		令和2年 11 月 9 日(月) 14:00～16:00		
開催場所		精華町役場 6階 第 1 委員会室		
出席者	委員	上甫木委員長、岩本副委員長、畑中委員、寺本 和生委員、寺本 英樹委員、中筋委員、信田委員、鷹居委員、山本委員 (敬称略・順不同)		
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長		
		精華町 健康福祉環境部 環境推進課 竹島課長、藤原、佐藤 (敬称略)		
		(株)地域計画建築研究所(アルパック) : 中川 (敬称略)		
欠席者				
傍聴の可否	可	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可の場合、その理由				
会議次第	<p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">① 精華町の環境(令和元年度分)(案)について</p> <p style="padding-left: 20px;">② 第2次精華町環境基本計画(案)について</p> <p>3. 閉会</p> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 令和2年度スケジュール</li> <li>・資料2 精華町の環境(令和元年度分)(案)</li> <li>・資料3 第2次精華町環境基本計画(案)</li> <li>・資料4 第2次精華町環境基本計画(案)検討にあたって</li> <li>・参考資料1 第22回精華町環境推進委員会会議録</li> </ul>			

### 1. 開会

- ・健康福祉環境部長あいさつ

### 2. 議事

- ① 精華町の環境(令和元年度分)(案)について

- 上甫木委員長 年次報告書の評価について、皆さんのご意見をもとに記載することになる。ご意見をいただきたい。
- 信田委員 P2について、連節バスの導入等によるCO<sub>2</sub>削減量の効果検証を行ったと記載されているが効果は出ているのか。
- 事務局 計画策定後5年間効果検証をしている。
- 信田委員 公表されているバスのCO<sub>2</sub>排出量等のデータをもとに試算を試みたが、大したCO<sub>2</sub>減少の効果がないという結果が出た。実際の試算の条件としては、一台の路線バス、連節バスが両方とも満員状態を想定し、一人当たりのCO<sub>2</sub>排出量がどの程度かを計算した。連節バスも乗客がほとんどいない状態で走っていることも多く、逆にCO<sub>2</sub>が増加しているのではないかと。連節バスを運行している奈良交通に問い合わせたいと思っているところだったが、実際にはどのような効果があるか知りたい。
- 事務局 入手している資料を見ると、自動車から路線バスへモーダルシフトする分がCO<sub>2</sub>削減量としてカウントされています。
- 信田委員 実際のデータではないということか。
- 事務局 モーダルシフト分も入れて、検証はされています。
- 信田委員 今後データが公開されると思うが、私は評価できないのではないかと思います。
- 畑中委員 効果検証の段階ではよくあることである。実際にシフトがおきるかどうか、どういう動きが起こるかも踏まえて検証されていくのではないかと思います。
- 上甫木委員長 データが公開されましたら、審議会でも紹介いただければと思う。
- 岩本副委員長 P4の遊休地の解消について、今年はウンカが大量発生しており、精華町だけでなく、農家の被害が250筆も受けている。多いところだと80%の被害が出たところも見受けられた。これを機会に米作りをやめたいという声も出てきている。その状況の中で、遊休地の解消について、抑制をすることが出来たという表現になっているが、この対象は規模の小さな農家または青色申告しているような規模の大きな農家を対象としているのか、いかがか。

事務局 農地全体として劇的に下がっているのではなく、徐々に進めている形です。また、今年データは入ってなく、去年までの取組内容となっています。

岩本副委員長 今までの10年とこれからの10年は大きく変化していくと思う。引き続き、産業振興課と協議して、現実問題をどう解決するかも重要ではないか。  
P6の道路維持管理事業の進捗状況の2つ目について、私は南地区の会長をしていて、町の表玄関である祝園駅、新祝園駅の東西道路が非常に狭く、交通量が増えた関係で渋滞が発生している。その時間帯と子どもの通学時間帯が同じ時間に発生している。安全・安心の面で、本当に安全がはかられているのか。JRと近鉄の協議も必要だと思うが、住民の安全・安心につながる形で結果を出していただければと思う。

事務局 記載されている内容は、ご指摘の根本的な構造についてではなく、既存道路・通路の維持管理の話であり、もう少し踏み込んだ議論や対策が必要かと思えます。継続的な課題としての取組だとう理解いただきたい。  
農地は、利用権の設定ということで、土地を持ちきれない方が誰かに持ってもらう形を農地集積したとして数値に表れています。農地を守れないという方が近くの方に農地を貸して集積してきていると思いますが、私も見ていると、ごく一部の方に寄っていつている状況にあり、受けられた方の手が回らない状況ではないかと思えます。農地の保全に務めている状況で、本来の効果を得るのは難しいのではないかと思います。問題となっているのは、地域農業の担い手不足ということで、利用集積を図ることで足腰の強い農業を進めることが本来の目的ですが、現況は農地保全をかるうじて行ってもら手段となっています。農業振興の担い手育成と農地の活用を施策として行うべきであり、今後の課題だと思えます。

上甫木委員長 農地は多面的機能効果がある。農地活用のニーズの掘り起しを実施し、従来の農業振興だけでない活用も考えていく必要がある。

事務局 市街化地域に限られており、基本は市街化調整区域であり、精華町では環境保全として寄与していると思いますが、調整区域の農地の作り手がいなくなり、荒廃につながり、辛うじて残っているものも一部の方への集積が図られている状態です。

上甫木委員長 そのあたり農業委員会はいかがか。

岩本副委員長

小規模農家で後継者のいない農家や農機具を新たに買う余裕のない農家が増えてきており、その支援が農業委員の課題である。精華町の大規模農家は10町歩あるかどうかであり、本来は20～30町歩で、トラクター複数台持っている方が、委託を受けて行うと思うが、大型農機具が入らない農地が多く、調整区域の整備がされていないため、大規模農家に依頼しても受けられないという実情が多いのではないかと思う。

どのように農地整備をしていくか、どうまとめていくかも今後の課題ではないかと思う。

鷹居委員

P3の「今日あなたは環境によいこと何をしましたか」とあるが、毎朝散歩のついでにごみを拾っている。ごみの内容が変わってきており、以前はビニール袋が散財していたが、有料になってほぼゼロになった。マクドナルドのジュースや箱などは相変わらず散在しており、ペットボトルやビールの缶などもバス停にも見受けられるが、見事にビニールについてはほぼなくなった。行政の役割は非常に大事だと思う。

P4の犬のふんの放置について、20年くらい前に精華町に来た頃は犬のふんもたくさんあったが、精華大通りに昨今はなくなってきている。

このような良い事例も踏まえて、指導していただければと思う。

上甫木委員長

抑制効果があったということで、継続的に活動しているということを明示しておいてほしいというご意見かと思う。

P4の町民1人が一日に出すごみの量の表について、一人当たりのごみの量が増えていっている数字について気になる傾向が見られている。

P5の循環型の指標で資源化率が落ちていっている。ごみに対する取り組みがゆるんできているのではないかという印象を受ける。その点について、市民の方へその大切さを言う必要があるのではないかと思う。

P3のトピックに関連して、ごみの分別・削減に向けた取り組みをされたということだが、その背景に行政が意識的にこのキャンペーンを実施したのであれば、ここ2～3年の傾向があることを記載しておき、その課題を再認識いただくことが必要かと思う。

P10の今後について、食品ロス削減キャンペーンでフードドライブの取り組みを実施しているとのことだが、色々な取組と関連している。子ども食堂やそこで提供する生鮮品、食品リサイクル等の様々な取り組みとの関係性も意識されていると思うので、その点も記載してはどうかと思う。

事務局 新しいクリーンセンターが出来た際に、汚れの落ちないプラスチック製容器包装や小さいプラスチックごみを燃やすごみとして出していただくよう啓発しましたが、全てのプラスチックごみを燃やしてもよいと誤解された方がおられました。そのため、本来リサイクルできるプラスチック製容器包装も燃えるごみとして出されているのが散見されます。住民に向けた普及啓発も行っていますが、プラスチックごみは燃やしても良いとの印象が強く残っており、引き続き啓発が必要です。

P3のボードゲームは普及啓発の意味も込めて実施した。今後も気軽に参加してもらえようなことを考えたいと思います。

上甫木委員長 取り組みを実施した背景を記載し、町民の方に意識してもらうことも大事だと思う。

事務局 フードドライブについては、他部署と連携することが多いので、それぞれ関係性を意識して行いたいと思います。

岩本副委員長 一人ひとりのごみが増えているということだが、これは2019年度の結果である。今年はコロナの関係で、ごみステーションのごみも大幅に増えている。次年度のデータの条件にコロナのことを入れておかないと、住民にはごみが大幅に増えたと理解され、ごみの増加につながることも考えられるので、このことは問題だと感じる。

粗大ごみもかなりの量が出て、2回も回収車を出していただくようなこともあった。その特異性について、次年度の分析の際に入れていただければと思う。

上甫木委員長 いただいた意見を評価のところに反映いただければと思う。

## ② 第2次精華町環境基本計画(案)について

上甫木委員長 ご意見、ご質問お願いできればと思う。

事業者アンケートでは、交流や情報発信をしていきたいというご意見が多かった。この10年間、連携がうまくいっていなかったということも指摘されていたが、いかがか。

今後、事業者との連携を強く出していきたいという方向性があるので、ご意見をいただければと思う。

寺本委員 記載の内容で良いと思うが、小中学生の企業訪問の感想をいただいているので、町のHPに載せる等するとご両親に対しても啓発につながると思う。そ

の内容は企業でも保管しているので、情報を定期的に収集するなどを実施してはどうかと思う。

会議資料をたくさんいただくが、年間に何万枚にもなる。資料は、郵送ではなく、メールでいただければ問題がなく、会議もプロジェクターで示すなどペーパーレス化を進めてはどうかと思う。環境推進委員会からこのことを実施してはいかがか。

信田委員 P11にある定量目標について前年度以上とあるが、最終的には数字が出るのか。

事務局 設定した場合は出す予定です。

信田委員 P11の協働・環境学習について、精華町環境ネットワーク会議では町の委託を受けて、実施している講演会、映画会がある。主催だけでなく後援も入れてはどうか。

講演会の内容は、精華町の環境にあわせて、何をどのようにしていけば良いかを探りながら決めている。最初の頃は、里山に竹が繁茂し、この竹を上手く活用できないかというテーマで実施した。畑や農地が荒廃しているという問題から、滋賀県の菜の花プロジェクトを参考にその方を講演にお招きして、精華町の環境や産業に活かせるかということを考えて取り組んできた。精華町は柿渋の産地だったことから、テーマにしたこともある。最近考えていることは、藻類をバイオマスとして活用できないかということである。そういう取り組みも反映いただければと思う。

上甫木委員長 具体的にこのあたりに追加いただきたいという点があればご指摘いただければと思う。

信田委員 里地里山の保全継承や柿渋、竹・雑木林のバイオマス活用等も検討の中には入れていただいているかどうかと思う。

上甫木委員長 色々な事をテーマに活動されている方が、ネットワーク会議の中にいらっしゃるということか。

P13のパートナーシップの取組について、各主体の発掘、取り組み支援があげられており、地域内連携とあるが、現状がどうなっているかが気になる。地域の芽生えをネットワーク会議で把握されているのであれば、事務局にご提示いただけると、面白い取組をされている方と事務局の間にネットワーク

ができ良くなると思うが、いかがか。

- 信田委員 取り組みをしているという例は少ないと思う。一般でされている方はいるが、具体的な取組としてパートナーシップに提案できるものはない。
- 事務局 ネットワーク会議からお話をうかがっていますが、ネットワーク会議のイベント等の取組に参加される方の中からは、町内で何かをされている、何かをしたいという方の発掘までには至っていません。
- 上甫木委員長 P23でご提案されているように、多分野の団体との連携も含めて環境の取り組みをやっていくということは大事だと思う。環境だけでなく、他分野にもアンテナを張っていく必要があるだろう。
- 信田委員 ネットワーク会議の参加者は減少し、参加者の高齢化が進んでいる。
- 上甫木委員長 P22の里山についても、子どもだけでなく、親もターゲットとし、ご家族で来ていただいて、次の担い手を発掘していくことも重要だと思う。
- 信田委員 整備された里山は子どもが入っても大丈夫だと思うが、荒廃した里山の整備や木材活用が必要であり、その点が課題である。  
P11の資源・気候変動のごみの定量目標について、平成表記は古いので、表現は現在のものに直した方がよいと思う。  
P13について、違和感を持つのは主語がなく、誰が取組を進めるのか具体的に考えていただきたい。担当課を記載するなど必要ではないかと思う。取組の方向だけ出しても進まないと思う。住民団体はボランティアでやっている、自主的に動ける方がよいと思う。また、年間計画などの実施計画を立てていただく必要があるのではないかと思う。
- 事務局 主体の基本は精華町であり、環境推進課と各課になります。取り組みや進捗度合の集約は環境推進課で行うが、各々の取組については実施する担当課が主となります。
- 信田委員 P18の環境に配慮した公共交通について、道路が全て舗装されており、水が浸透せず、水害の原因にもなり、道路下の微生物が育たない等の色々な影響がある。せめて透水舗装が必要ではないかと思うが、事業部が道路の補修をする場合に、透水舗装率がどうかということを目標にするなども考える

べきではないかと思う。歩道や自転車等についても記載されているが、それらについても何らかの数値目標を持つべきではないかと思う。

P19に SDGsが載っており、協働・環境教育の(1)パートナーシップによる取組の推進において、SDGs の1番が入っているが、ターゲットがどこになるのか教えていただきたい。また、生物多様性・安全には、SDGs の13番も入るのではないかと思う。

事務局

生物多様性・安全に、SDGsの13番が入るかどうかを再度検討したいと思います。

また、協働・環境教育の(1)で、SDGs の1番である貧困について、169のターゲットが手元にないので、後日お伝えします。

岩本副委員長

自治会としては、活動の目標を立てている。私たちの自治会は、文化を守るためにイベント開催の年間計画や安心安全なまちづくりとしてまちの環境を良くするための取り組み、防災や防犯の取り組み、高齢化の進行化に伴う高齢者の支援をどうするか、文化スポーツ活動をどうするかということを模索して活動しているが、うまくいっていない状況にある。このことには、コミュニケーションが上手にとれないという問題がある。高齢の方が多く、過去の取り組みを継承することが多く、しなやかに活動をすることが出来ない。

目標1の中で、地域コミュニティとのつながりに着目した取り組みとあるが、自治会の活動の中でも、個人情報保護の壁があり、要支援者へアプローチが出来ない状況にある。自治会だけでなく消防団も入り、要支援者へのアプローチを考える必要があると思う。このことは、木津川の決壊や地震、地滑り等の災害時の避難にも大きく影響する。今までに経験したことのない大雨の際、木津川が決壊した時の対策に、関心のない方が多い。JR・近鉄の東側は確実に5m 浸かるが、役場から西側の住民は、水害対策に無関心である。地域性も考慮した形で目標を設定していただきたいと思う。

目標2の中で、子どもとのコミュニケーションとあるが、少子化と自治会への関心が少ないことが背景にあり、過去に父親会を作ってほしいと提案したことがあったが、実現しなかった。全体のコミュニケーションをとるためにどうしたらよいか町からもアドバイスいただきたい。全体でコミュニケーションがとれるような地域づくりについても入れていただきたいと思う。

P15に、あき地と休耕地が記載されているが、空き家についても入れていただきたい。南地域は新旧が混在している地域のため、高齢化地域と若い人の地域が分散している。また、出ていかれる方も多く、空き家が増えている。不審火や樹木の剪定、ごみの問題など自治会に意見が入ってくるが、自治

会では解決できない現状である。美しい景観の中に空き家も入れていただき、適切な指導をしていただきたい。

事務局

ご意見について、コミュニケーションの取り方についての課題はあると思います。また、災害もいつ起きてもおかしくない状況ですが、精華町のそれぞれの地域性を計画内に出すことは難しいかもしれません。いただいたご意見は大切な視点かと思うので、盛り込んでいきたいと思っています。

空き家については、文章には記載しているので、タイトルに記載しても問題はないと思います。また、現在の所管は消防本部ですが、それだけでよいのかということは課題認識を持っているので、関係部署が連携をはかって、取り組みを進めていきたいです。

昨年度、都市整備課が空き家の実態調査を実施したと聞いていますが、すり合わせが出来ていないので、どのような表現にしたらいかが確認したいと考えております。

事務局 a

精華町が都市化する中でコミュニティや高齢化について、2023年度から団塊の世代が後期高齢者となるので、一気に高齢化率があがります。65～74歳の方が現在は多いが、2023年度から逆転し、75歳以上の高齢者が65～74歳の高齢者よりも多くなるという状況が精華町で生まれます。

災害時の対応などは喫緊の課題と認識しています。どの自治体も災害にどう対応していくか、高齢者や子ども等の災害弱者の避難をどうするかという計画を設定する必要がありますが、個人情報保護の壁があり、うまく進まないのが現状であります。

現在、国では、自助・共助・公助・互助と地域共生社会の実現を目指しており、福祉系から取り組みを進めてはいるが、防災、まちづくりなど全てに関わる状況にあります。横断的にどの部署も連携して取り組みを進める必要があります。共助の部分は喫緊の課題で具体的に取り組みを進めなければならない状況です。

地域の高齢者の見守り活動や子どもの虐待などを早期に発見するのも地域の支えが必要であり、それらの課題を一体的に捉えることが必要になります。環境分野においても連携しないと取り組みが進まないということもあるので、計画策定にあたっては、その点も理解して項目を設定していく必要があると考えています。

自治会の加入率も地域により差がありますが、協働という取り組みをどう進めていくかに大きく関わります。ご意見いただいた点を踏まえて、計画策定を進めていきたいと思っています。

- 畑中委員 全体としてはこれで良いと思う。SDGsについて用語集をつけていると思うが、SDGsは17のゴールだけでなく、誰ひとり取り残さないということと環境と経済と社会を統合的に取り組むということが重要であり、それを分かった上で整理しているということを表示したほうがよい。
- 事業者の中で、Re100の話が出てこないが、例示的な話として入っても良いのではないかと思う。
- P14の3-1-1 (2)③は、(2)環境学習の推進ではなく、(1)パートナーシップによる取り組みの推進の①に入れてもよいのではないか。また、現在の(1)の①を②に移し、②の環境情報の収集・提供は当たり前の話なので、削除してもよいのではないか。
- 地域循環分析を見ると、持続可能性という面では、文化や祭りの絆が強い地域は地域で経済が回っている。
- 信田委員 東畑の馬原地区の開発の問題が環境面でも大きな問題になると思う。かつては、森林に緑化するという話で進んでいたものが、今では住宅か工場にするという開発となり、話が進んでいると聞いている。このことは、精華町の大きな環境問題として考えている。
- 上甫木委員長 環境基本計画の現状がベースにあるが、現状にいたる長い歴史的な側面があり、歴史や土地の成り立ち、大きな意味での地域性を背景に持っていることを示す必要がある。
- 山本委員 里地里山について、農地が荒れていくのは担い手の話や採算があわないこと、山では山に行く用事がなく、荒廃すると山に入ることができなくなるという点が背景にある。山際に家を建てているところが多いが、先日、裏山で直径30cmくらいのくぬぎが倒れたが、その木の端の10数m先に民家があった。山の所有者はいるが、所有者が亡くなり、血縁がないため連絡もつかないとなったときに、災害が起きたときはどうなるのか。当事者同士で解決する必要があるかもしれないが、山が荒廃しており、危険用地にしないと家の倒壊にもつながるかもしれないので、木の管理をしていただきたい。
- 上甫木委員長 森林環境譲与税の用途としても、災害防止という視点があったかと思うので、その点についても反映させていただければと思う。
- 事務局 現在、産業振興課で森林計画を策定中であり、その中には里山の整備・調

整・保全をどのように進めていくかということやモデル地区の設定等を検討しているという話があります。放置林等の危険性を伴うものもあります。

最近、イノシシやアライグマ等の獣害鳥獣の被害が急激に増えており、対応に苦慮しています。放置林等の一部や、草刈りが十分できていないところの影響もあると思います。

作っても荒らされることで、耕作意欲の低下につながるという悪循環を環境整備することにより良い方向に改善していきたいと思っています。

上甫木委員長 意見があれば事務局にお伝えいただければと思う。

### 3. その他

事務局

ご意見等いただいた点については、委員長、事務局とで整理させていただきます。

今後の予定について、今日いただいた意見を踏まえ修正し、庁内で確認した後、年明けにパブリックコメントを実施したいと考えています。その前に、委員の皆様にはご確認いただきます。

パブリックコメント後、パブリックコメントでいただいた意見も反映し、来年2月22日に第3回の委員会を開催し、最終案をとりまとめていきたいと思います。

今日は色々ご意見をいただきましたが、この他にご提案がございましたら、環境推進課までご連絡をお願いいたします。

### 4. 閉会